



# 小さなタイルで みんなの大きな夢をつなぐ

皆さんはご存じでしょうか。  
白石サイクリングロード・カラマツトンネル内の壁に  
タイルで大きなモザイクアートが描かれていることを。  
これは、白石東地区まちづくり協議会が中心となり、  
たくさんの人たちの手で完成させたものです。  
「まちづくり活動」の一事例として、2年にわたる取り組みを紹介します。

この特集に関するお問い合わせ 白石区地域振興課 ☎861-2400 (内線256)



みんなのまちにアートを描く。

## 私の役割はモザイクアートでみんなをつなぐこと



原田 ミドーさん (彫刻家)

これまで割れたタイルはごみとして捨てられていました。でもモザイクタイルアートにはキレイな四角いタイルではなく割れたタイルこそ必要です。1つ1つのピースが目地という「すき間」でつながってすてきな芸術作品が仕上がるように、すてきな社会空間が生まれるには、さまざまな個性が集まってつながることが大切です。今回、私は1人のアーティストとして、まちづくり活動で「すき間」をつなげる手助けができればと考えていました。

1963年生まれ。厚別区在住。北海道で活躍する彫刻家。40歳の時、建築家のアントニ・ガウディを研究するためスペインに留学。帰国後、それまでの1人で取り組む石彫制作に加え、集団で作るモザイクタイルアートもライフワークの1つに。江別市や厚別区などで地域のまちづくり活動にも参画。また、芸術を通じた子どもたちへの教育にも情熱を注ぐ。



子どもにタイルの張り方を楽しく教える原田さん



モザイクアート…大理石・ガラスなどの小片(ピース)を組み合わせて配置し、絵や模様を描く美術・建築装飾技法の1つ。



## 暗いイメージのトンネルを 明るい夢のある空間に。

**誰でもいいことも自由に参加できる。**  
制作期間中、地域の子どもや住民はもとより、離れた地域や区外から足を運ぶ人、たまたま同トンネルを通り掛かった人など多くの人が参加した。腰を据え



**デザインには地域の子どもや住民の思いを込めて。** トンネルをモチーフにした南側(昨年10月完成)のデザインと「ふるさと」をイメージした北側のデザイン。どちらも子どもたちがトンネル周辺を実際に散策して、ワークショップで出したアイデアを基に、原田さんが下絵を描いた。

**みんなの力で立派な作品を作りたい。** アートディレクター(制作監修)には、モザイクタイルアートで広く活躍する彫刻家・原田ミドーさんを招いた。原田さんの飾らず親しみやすい人柄は多くの人の心を引き寄せて、作品制作への意欲をかき立てた。

**すべてはそんな地域の思いから始まった。** 白石東地区まちづくり協議会が実現に向けて動き出したのは約1年前。近隣町内会の住民や大谷地小学校の児童・PTAらが協力して、白石サイクリングロード・カラマツトンネル(南郷通17丁目南)の壁面にモザイクタイルアートを描くことに。

